

小松市木場潟スポーツ研修センターの利活用に係る サウンディング型市場調査の結果概要について

令和 7 年 11 月 28 日

小松市木場潟スポーツ研修センターの利活用や管理運営方法等について、幅広い民間事業者の皆様との対話を通じ、広くご意見やご提案をお聴きし、今後の管理運営方針の参考とすることを目的にサウンディング型市場調査を実施しています。

今回、民間事業者の皆様と個別対話を実施し、結果を取りまとめましたので、その概要を次のとおり公表します。

1. 実施概要

(1) 実施要領の公表

令和 7 年 8 月 1 日（金）

(2) 説明会・現地見学会

実施日：令和 7 年 9 月 1 日（月）

参加者：3 者

(3) 個別対話（サウンディング）

実施日：令和 7 年 10 月 17 日（金）・20 日（月）

参加者：3 者

2. 個別対話の主な内容（参加者からの提案等、順不同）

(1) 研修棟について

- ・解体後の跡地活用としては、大きな建物は必要なく、受付やシャワールームがあればよいのではないか。
- ・新たに何かを整備する際は、周辺施設の機能と重複しないよう検討する必要がある。
- ・学習等スペースや送迎の保護者向けの有料スペースは新たな収入源になり得る。
- ・スポーツ関連の施設整備を検討するのであれば、積雪地域でもあるため通年で安定利用ができる屋内型スポーツ施設がよい。
- ・アーバンスポーツ施設の敷地としては狭く感じられ、手軽に行ける立地でもないため利用も限定的になるのではないか。
- ・ランカフェは広告宣伝にはなるが、販売収入で運営していくことは難しい。
- ・サイクルステーションとしては販売には敷地が狭いが、修理に対応できれば一定の

収入はあるのではないか。

- ・合宿施設として運営をしていくよりは、周辺の宿泊施設と連携したほうがよい。
- ・コンビニを誘致して必要な機能（受付やトイレなど）を担ってもらってはどうか。
- ・熱中症対策としてエアコンがある建物があるとよい。

(2) 体育館について

- ・体操競技に特化していることで安定的に利用者が確保できている反面、利用料の增收は見込みにくい施設となっている。
- ・クラブではなく個人利用があったときに安全面で懸念がある。
- ・使用可能な競技が限定されているため、提案できることがない。

(3) テニスコートについて

- ・利用料金が安いことで利用者を確保できているが、持続可能な施設かどうかという意味では疑問が生じる。他の施設では、固定費のコスト増に対応して見直しをしているケースもある。
- ・オムニコートとハードコートがあるが、運営側として使い勝手を考えると統一したほうがよい。
- ・熱中症や日焼け対策として屋根があると利用しやすいのではないか。
- ・現状の面数では小規模のサークルなら受け入れ可能と思われるが、天候に左右されないような対応も必要（他のアクティビティを用意するなど）。
- ・教室事業をするには駐車場が狭いため、地元の方が交流できるような施設が向いているのではないか。

(4) 施設全体として

- ・立地条件として民設民営は厳しい。
- ・収入があまり見込めない施設であるため、指定管理委託料又は業務委託料は必要。
- ・周辺の宿泊施設と連携して合宿などを誘致できると良い。
- ・合宿や大会の受け入れができればある程度の収入が見込めるが、市民向けの施設となると減免などもあり採算が合わない。
- ・独立採算が可能なのは首都圏のみで、収入の軸となっているのはコンサートやイベント利用である。
- ・受付として職員を配置すると人件費がかさむため、無人化も検討してはどうか。
- ・収支バランスの改善策としては収入増よりも経費削減が中心となる。
- ・施設全体として駐車場が狭いため、施設の再配置も含めた検討が必要ではないか。
- ・合宿時などはバス移動であり、そういった意味ではアクセスが良い立地だが、駐車道が狭く道路条件が悪い。

- ・木場潟公園全体としてスケールメリットは感じられる。
- ・木場潟公園全体として健康増進施設（ゾーン）として整備してはどうか。

3. 今後の予定

小松市木場潟スポーツ研修センターの利活用について、本調査によりいただいたご意見やご提案も参考にしながら、引き続き検討を進めます。

なお、ご意見・ご提案の内容が必ずしも今後の政策に反映されるとは限りません。

(公表期間：上記公表の日から1年間)